

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ・打合せ ・協議	文書番号	—
		決裁期日	平成28年7月6日
名 称	第7回未来創生委員会（平成27年度第2回）		
日 時	平成28年5月25日 午前 ・午後 10時00分～11時55分		
場 所	安平町役場早来庁舎（第2会議室）		
出席者	安 平 町 （企画財政課）木林課長、岡主幹、木村主幹 委 員 未来創生委員会委員7名 外部有識者 北海学園大学経営学部教授 菅原浩信氏 F P オフィス・サポート代表 星洋子氏		
会議概要	<p>1 開会（進行：木林企画財政課長） ◇半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長挨拶 ◇暖かくなったり寒くなったりと、自然環境の変動を感じさせる。 ◇話は変わりますが、約1ヶ月後に「第8回あびら夏うまかまつり」の7月2・3日に開催される。3万人の来場者を見込む一大イベント。是非とも皆さんも参加いただきたい。 ◇また、これまで任意団体だった安平町観光協会が、今回4月1日付けで「一般社団法人あびら観光協会」となったことをご報告したい。 ◇本日は4項目の議題となっている。皆様方の協議についてよろしくお願ひしたい。</p> <p>3 議 題 （1）第2次安平町総合計画の構成（素案）について（説明：企画財政課 岡）</p> <p>【概略説明（ポイント）】資料は第2次安平町総合計画の構成（素案）P1-P4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の総合計画は、旧追分町と旧早来町の2自治体の合併協議を進めている中で作成しているため、構造が複雑である。 ・それぞれの地域の施策を掲載しているイメージとなっている。 ・重点プロジェクトについても総花的であり重点となっていない。 ・第2次安平町総合計画ではこの構造をシンプルにしたいと考えており、町民が見たときに「このまちは何をやっていくのか」ということがわかる計画を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・構成は「全体の体系図」⇒「総合計画とは」⇒「安平町の課題」⇒「安平町の特徴と特性」⇒「安平町の強みと弱み」⇒「将来像（将来目標）」（P1） ・安平町の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を踏まえて安平町が伸ばしていくべき戦略の方向性は何か、地域の弱みと脅威に対してどのように対応していくべきか、これを考えていく（SWOT分析）。（P2） ・将来像については、前回4月に「強み」だけで将来像を設定して良いか。住んでいる人が幸福感を感じられるかという意見もあったことから、まずは10年後どのようなまちになっていきたいかというイメージと「まちの強み」をつなぎ合わせるこ 		

- で将来像を設定することとしている。
- ・重点プロジェクトは現計画の5本のプロジェクトを次期計画では1本に絞る。
 - ・基本目標については6つの分野において分野別将来像を設定する。

(質疑)

<田中委員>

- ・資料2Pの上に記載されている「課題や問題点を洗い出したあとに将来像を語るのには無理がある」という記述の意味は何か。

(企画財政課 岡)

- ・将来像とは未来に向かった夢であるが、町が抱える問題点や負の部分を羅列したあとに、夢ある10年を計画に記載することは難しいという意味の記載である。

<菅原アドバイザー（助言）>

- ・第2次安平町総合計画策定方針では「選択と集中」と記載されている。
- ・かつてバブル時代のような「あれもこれも」の時代は終焉し、限られた財源と人を何かに集中する必要がある。
- ・安平町の政策課題には成長可能な分野もあれば、大きな課題・問題点もある。
- ・大きな課題や問題点の克服も必要ではあるが、選択と集中の観点では成長可能な分野に人と金を投入した方がやりやすい。
- ・弱みから目を背けるのではないが、将来像を語るときには、成長可能な強みから入ることが重要と考える。

<山崎委員>

- ・重点プロジェクトを一つに絞るとあるが、これは基本目標の中から重点プロジェクトを1つ出すのか、基本目標を包括したものをプロジェクトとするのかを教えてもらいたい。

(企画財政課 岡)

- ・将来像を実現するためのプロジェクトという考えであり、基本目標の中の施策から重点事項を抽出していくという考えではない。
- ・例えば「子育て」でいくと、従来の行政では保育は福祉、幼稚園は教育委員会とセクショナリズムで事業を展開してきたが、将来像を定めこれを横串で対応するというものを重点プロジェクトで定める考えである。

【概略説明（ポイント）】資料は第2次安平町総合計画の構成（素案）P5-P8

- ・計画策定の背景＝安平町の「機会」と「脅威」
- ・安平町の現状と特性＝安平町の「強み」と「弱み」
- ・これらを掛け合わせてSWOT分析を行う。このSWOT分析のイメージは6ページの他自治体例を添付
 - 「強み×機会」＝成長戦略 「強み×脅威」＝回避戦略
 - 「弱み×機会」＝改善戦略 「弱み×脅威」＝改革戦略（撤退戦略ではない）

<菅原アドバイザー（助言）>

- ・ 6 ページの他自治体の例の成長戦略に記述されている「自然資源、特産物の地域ブランドとしてのブラッシュアップ・PRや6時産業化の展開」とあるのは、強みにある「緑茶が名産」と機会にある「高度情報化の進展」の掛け合わせとなっている。
- ・ 同じく改革戦略にある「暮らしに身近な施設の確保」とあるが、これは弱みにある「商業系指標の減少傾向」と、脅威にある「少子高齢化・人口減少の進行」の掛け合わせであると推測できる。
- ・ SWOT分析とはこのように、掛け合わせることで生まれる戦略である。
- ・ これが基本計画や実施計画の施策に結びついていくこととなる。

(説明)

- ・ 次に7ページであるが、これまでの未来創生委員会の議論のおさらいも含めて資料化している。
- ・ 今の現テーマは、総花的でどのまちでも通用するもの。
- ・ 次期計画では安平町ならではの将来像設定が必要であると考えている。
- ・ オンリーワンの将来像を作れるか、今後町民まちづくり会議を開催するがその中の話し合いで見つけていければよいと考えている。
- ・ そこで、安平町の次の10年間で最も取り組まなければならない最重要政策課題は何かということになる。
- ・ 市町村の存在意義は「公共の福祉実現」（最低限度の生活を営む権利の保障）
- ・ そのためには財源・税収を確保し、行政サービスなどを持続可能とする必要がある。
- ・ 財源と税収確保には、生産年齢人口の確保が不可欠であり、最重要政策課題とは人口減少に歯止めをかけることが重要となる。
- ・ 人口減少に歯止めをかけるには、あらゆる世代分野から選ばれるまちとなるべき。
- ・ なかでも「若い世代に選ばれるまち」に結び付けていかなければならない。
- ・ この方向性について委員の意見をお聞かせいただきたい。

<西村副委員長>

- ・ 特に30代—40代に選ばれるためには、やはり「雇用」が重要であり、その次には「教育」である。また、高齢者に選ばれるためには、「医療」「福祉」となるのであり、選ばれる年代によって重要な施策分野は大きく異なる。
- ・ 特化して若い世代に選ばれるためにと考えればやはり「雇用」が最重要であると思う。
- ・ 今いる企業・商店が元気になること。そして働く場が確保され続けることが必要だと思う。

<佐々木委員>

- ・ アンケートで様々な意見が出されている。固定したキーワードを探る上で、こうした意見を大事にしていくことが重要であると感じる。
- ・ こうした声に耳を傾けなければ、同じことの繰り返しになるのだと思う。
- ・ 今いる人たち、今ある商店、企業の人たちを大事にする方法をしっかりと考えていくことから、キーワードは生まれてくるのではないかと考える。

<瀬田川委員>

- ・何か一つに政策を絞り込むことは難しいと感じる。
- ・今若い方も将来は高齢者となり、今必要としていないものが必要となるときがくる。
- ・現時点では子育て世代なので、教育や医療に関心がある。
- ・先ほど安平町に働く場所があることが優先という話があったが、働く場が安平町にあれば若者は住むかと問われれば、若者は通ってでも千歳に住むだろうと思う。
- ・今住んでいる方も、住んでいるのは安平町であっても、消費は他の自治体という現状にある。まちにお金が落ちていない。人口増が地域活性化につながらない現状は変えていく必要がある。
- ・ちなみに、安平町は外の人に情報を伝達するのが不得意であり、高校生までの医療費無料化やインフルエンザ費用の軽減など行っているが、HPでも掲載が見られないなど、PR不足。

<山口委員>

- ・現状把握については既に終わっている話であり、それにもかかわらず、対策を講じないで、基本構想・将来像というものを議論していることに違和感がある。
- ・人口減少対策という部分のコアな施策を検討していくべきではないか。
- ・総合計画は行政計画であり、それは行政が責任を持って策定していくべきだと考えており、この場で話し合うべきことは、重点プロジェクトで何をやっていくか項目を絞って議論していくべきだと感じている。

<佐々木委員>

- ・総論も大事だし、具体的な施策についても重要である。
- ・10年計画も必要。でも目の前の人口減少対策も重要。同時並行・同時進行できないかを感じる。

*10年間の将来を見据えた大綱を検討するのと具体的な方策検討の両面を議論することについて、次回検討することとした。

<田中委員>

- ・人口減少というものに素早く手を打つべきではないかと考えている。
- ・資料8ページにあるとおり、若い世代にこの町に住んでもらわないと、未来が見えないというのはそのとおりと感じる。
- ・若い世代が来るにはどうするか、来たらどうするかを考えたときに、来るためにはやはり雇用が無いと来ることができない。
- ・では来たらどうするか。これは子ども達も安心して看取れる、安心して死ぬるそんなまちでなければならないと感じる。
- ・雇用について考えれば、今の強みを活かした新たな産業を興さなければならぬと感じる。
- ・農業、菜の花、SLなど様々な強みを活かすとすれば、「食と観光」になるのではないか。
- ・それを興すのは誰か。これが一番問題であるが、新しく来た人、今いる人、今ある企業が一体となるほかない。

- ・若い世代をスモールビジネスでサポートする元気な高齢者を増やせないか。まちぐるみで最終的に持続的に支える仕組みづくりが重要となる。100%は解決できない。ただ、8割は解決につながる。そんなまちづくりが必要だと思う。

<山崎委員>

- ・人口減少は、社会増減と自然増減で決まるが、自然増への期待はなかなか難しいとすれば、社会増を目指さざるをえない。
- ・短期的な施策の重要性について意見はあったが、長期的な10年間の中で、短期的に行うもの、中長期的に行うもの、短期的な対策というように分けて考えていくべきであると思う。
- ・毎年これらをPDCAサイクルで検証・評価・改善していくことが重要。
- ・まずはグランドデザインを描き、これに基づく基本目標を定め、これによる施策を皆さんと議論していくべきであると感じている。
- ・生産年齢世代対策には「子育て」とともにやはり「雇用」は重要。今ある事業所を地域でしっかり守る。その上で次の企業誘致を狙う。

<星外部有識者>

- ・テーマは町民に向けてのものであると同時に、町外に向けて発信するものである。
- ・人口減少に歯止めをかけることが最重要であることは同感である。これを進めないと安平町がなくなってしまう可能性もあることから、これはしっかりやるべき。
- ・町外に向けて発信するテーマ・キーワードを町内に全く無いものから設定することはできない。
- ・10年後のテーマでありながら、1年後に見たときにその片鱗も感じさせないテーマを設定しても仕方ない。
- ・SWOT分析の成長戦略、もしくは改善戦略という今ある「強み」の中から設定する必要があるのではないか。

<菅原アドバイザー>

- ・今までの意見を無にする発言となるが、まず前提として、総合計画は人口減少対策から入るべきではない。
- ・どうして人口減少対策が必要なのか。なぜ人口構造を改善しなければならないのか、そこからの議論をしっかり行うべきではないか。
- ・まず、10年後にこのまちをどういうまちにしたいのかという議論があって、そのうえでそれを実現するために何が必要なのかという協議がある。
- ・そうした考え方をしないと全てが短絡的になってしまう。
- ・そこは考えていただきたい。
- ・今の議論は（総合計画としての）出発点が違うのではないか。

(企画財政課 岡)

- ・この後住民と協議していくわけだが、未来創生委員会の中でも抽象的なままであれば、町民まちづくり会議でも抽象的に終わる可能性があり、この場（未来創生委員会）では、方向性を具体化して確認をしたかったもの。

<菅原アドバイザー>

- ・はじめに人口減少を何とかしなければいけないというところから入れば、当然子育て世代をどう呼び込むかということとなり、議論に深まりが出ない。
- ・そうなれば、将来像・基本構想ではなく、もはや基本計画の議論となる。

<田中委員>

- ・人口減少というよりも、人口構造の改善が必要なわけで、これを改善しない限り、全ての世代が将来的に困ることとなる。

<菅原アドバイザー>

- ・人口減少対策は重要課題であり、改善していかなければならない。ただ、そこから議論を持っていくと、町民まちづくり会議では細かい話（施策）の話にしかならず、将来安平町をどのようなまちにしたいかという議論にならない。
- ・抽象的なイメージになるかもしれないが、全世代が生き活きと過ごせる町がいいとか、そういう部分から話を掘り下げていくべきと感じる。

<山崎委員>

- ・安平町の現在の計画の将来像が抽象的であるのは、議論が抽象的な部分から入ったからではないかと考える。
- ・そうならないためには、課題を具体化するべきであると思う。
- ・予算も限られている。具体的な流れを作っていくべきではないか。

(企画財政課 岡)

- ・将来像については抽象的にならないようにしたい。ただ、確かに将来像を決める議論の入り口を人口減少問題から入ると、他の議論の切り口を狭めてしまう可能性はあるという意見であり、これから行い町民まちづくり会議ではその点には注意をしていきたい。

<佐々木委員>

- ・この会議や町民まちづくり会議は町民が主役。人口減少対策はそのとおりだと思うが、最初から方向性が提示されると町民意見が出づらくなる可能性もある。
- ・町民から様々な方向性から素晴らしい意見が出るかもしれない。それを是非期待したい。

(2) 町民団体ヒアリング結果について (説明：企画財政課 岡)

【概略説明(ポイント)】資料は第2次安平町総合計画の策定に伴う町内団体との意見交換会簡易報告(途中経過)。

- ・現在行っている団体ヒアリングの途中経過についてまとめている。
- ・全10回の予定のうち、9回実施済み。
- ・特に、まちづくりの根幹となるコミュニティ団体(自治会・町内会等)からは、「10年後の活動が困難になる可能性がある」「所属世帯数の少ない小規模な自治会・町内会の資金不足」「役場職員の顔が見えない」「役場職員の積極的な関与への期待」という意見が多かった。
- ・こうしたヒアリング結果を総合計画に反映させていく考えである。

<質疑なし>

(3) 町民まちづくり会議の設置について（説明：企画財政課 岡）

【概略説明（ポイント）】資料は町民まちづくり会議の設置について 資料

- ・この町民まちづくり会議で議論し「まちの将来像」「方向性」を決めていこうというストーリー。
- ・併せて役場内でも同じ分野で専門部会（ワーキンググループ）を設置して議論を行っていく。
- ・会議は9月までの全5回を予定しており、そのテーブルには、各分野で町民6名の方が参加（未来創生委員会からも参加予定）、これに役場内のワーキンググループの職員も2～3名入り、一緒に将来像を考えていくもの。
- ・第1回目は6月8日とし、最終の9月27日を一定のゴールとする考え。
- ・役場内の専門部会の所属者については、リーダーは課長職、構成メンバーは管理職やグループリーダーとしている。
- ・町民まちづくり会議のメンバーには未来創生委員会委員にも入っていただいたが、これは未来創生委員会の中でも議論の共有が図れるよう意識したものである。
- ・町民まちづくり会議で議論していく流れとして、1回目から3回目までをまちの将来像の設定とし、3回目の途中からこの将来像を踏まえた個別分野での基本的目標を5回目までに定めるイメージ。
- ・町民から伺った意見をダイレクトに将来像として設定することは難しい部分もある。最終的にはいただいた意見を踏まえて役場内での議論により細部を詰めていくこととなる。

<質疑なし>

(4) 平成27年度地方創生先行型交付金事業の評価・検証について（説明：企画財政課 岡）

【概略説明（ポイント）】資料は平成27年度地方創生先行型交付金事業の評価・検証について

- ・平成27年度に行った国の交付金を活用した地方創生関連事業について、評価シートを作成している。
- ・町全体の地方創生関連事業については、4月に配布した資料に対して「総合戦略全体の検証・評価・改善をするためには不完全である」という委員からの意見をいただいたところであり修正をしているが、その前段で国の交付金を活用した事業を先に評価する必要がある。
- ・今回配布している評価表は、いわゆる事業評価であり総合戦略全体の評価ではないが、次回の未来創生委員会開催案内までに庁舎内評価をまとめ、事前に委員に対して送付し、委員会の席で外部評価をいただくこととしたい。（全10事業）
- ・なお、繰り返しになるが安平町の総合戦略に基づく事業については、当然国の交付金により実施した10事業だけではない。全体的な評価も当然必要である。
- ・この総合戦略全体の検証の方法について、前回4月の意見を踏まえ評価ができるような表を作成してお示ししていきたい。（次回委員会までに示すことは困難）

<質疑なし>

4. その他（議事進行：小林委員長）

- ・次回の未来創生委員会は7月の下旬（最終週）で調整を行いたいと考えている。

5. 委員長閉会挨拶

◇第7回目の委員会を終了

終了 11:55